
ワンピースに・・・転生してしまった

りょう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンピースに・・・転生してしまった

【Nコード】

N4089M

【作者名】

りょう

【あらすじ】

普通の何処にでも居る高校生、本田美和16歳・・・いつも通りに過ごし、家で寝ていたはずだった・・・神のせいで転生、しかもルフィの妹?! しかも、何故か美少女になっているしOrz・・・妄想大好き、でも文系苦手な私が書いたので、下手糞なので・・・ごめんなさい。

1話 神との出会い（前書き）

ワンピースモノ大好きで、でも少ないので自分で書いてちゃった
へっ

1話 神との出会い

ココは何処だ??

私は、本田美和（16歳）家で普通に寝たハズ……夢??で
も感覚があるから、現実?

「しかし、見渡す限り真っ白……」

これからどうしよう……

???「オイ!そこの女!」

????アレ???さっきまで誰も居なかったのに……???

「あなたは、誰ですか?」

???「俺はゼウスだ!」

……ゼウス?……

「ゼウス~~~~??」

ゼウス「そうだ!」

……それって!

「神のゼウス???」

ゼウス「そうだ。」

・・・・・・・・・・・・・・・・

「何で居るの？ヤッパリ・・・夢？？」

だって、有り得ないでしょう！！だって！神だよ！ゴットだよ！

ゼウス「残念ながら、現実だ・・・そして、お前は死んでしまった・・・」

・・・死んだ？・・・

「嘘でしょう？」

ゼウス「残念ながらホントだ。」

「何で死んだの？私家で寝てたよ。」

ゼウス「我々のせいだ。すまぬが転生システムのエラーのせいでお前の人生がリセットされてしまったのだ。そのためお前は死んでしまい、ココに来たのだ・・・」

「・・・じゃあ生き返れないの？」

ゼウス「すまぬ。しかも今の世界の理に外れてしまった為に、転生できないのだ・・・」

・・・・・・・・・・

「じゃあ・・・私どうなるの？」

ゼウス「他の世界で転生してもらう。我々の責任なので色々願いを
5までなら叶えてやれるが・・・どうする？」

どうせ、あそこに居ても平凡に終わっていただろうし・・・
どの世界に生まれても、平凡に過ごして終わるだけだろうな〜。

「じゃあ。転生させてください。」

ゼウス「そうか。では、願いはどうする？」

どうせ、やる気ないし・・・

「お任せします。」

ゼウス「！！・・・本当にいいのか？」

「?????いいですよ。」

ゼウス「じゃあ、転生させる。」

光があふれ出して、私の意識は無くなった・・・

・でも、この選択が間違いだった・・・Orz

ゼウス「変わった人間だったな・・・」

ゼウスは何千年も生きてきて何回かこのような事をしたが・・・
願いを任せられたのは初めてだった。

ゼウス「・・・よし！アイツ気に入った！」

そう、ゼウスのせいでとんでもない容姿と、とんでもない世界に転
生させられてしまうのだった・・・

ゼウス「よし！まずは転生先は・・・ワンピース・・・容姿は・・・
絶世の美女・・・あ！ルフィの妹にしてやろう・・・
後は、細胞の再生能力最強・・・魔力も覇気・・・最強で覇気は七
色で・・・不老にしてやろう・・・あつ！悪魔の実食べても泳げ
るようにして、何個だべても大丈夫にして・・・
よし完成！」

こうして美和の平凡人生は終わるのであった・・・

2話 何故この世界???私の平凡は???(泣)

うっ………

何処だろうっココ……

「あう~~~~あぶあぶ(まぶしい)」

……!………

「アブ~~~~~~~~~! (赤ちゃんになってる~~~~~)」

|||||モンキー・D・ガープ 視点|||||

今日ワシは、孫の誕生に立ち会って居る。

「次こそは、女の子がいいの……」

もうウンザリじゃ！息子もエースもルフィーもワシに冷たい……
女の子なら、ワシの味方になってくれるはずじゃ！

一時間後

オンギヤ————————！！……

念願の女の子が生まれた。
ワシが大事に育てよう

|||||アウト|||||

|||||美和視点|||||

私が生まれて1時間たった頃。

部屋におじいさんが入ってきた……………

おじいさん「おっ！目を覚ましたか、爺ちゃんですよ……」

……………
……………

この容姿……………このしゃべり方……………

爺ちゃん「おぬしの名は、モンキー・D・ミリー　じゃあ！」

「あぶ~~~~~」 (なんだって~~~~~)

カープ「そうか、うれしいか」

何故この世界・・・orz・・・（泣）

3話

アレから2年たった・・・

爺ちゃんの子育ては間違っている・・・

なぜかって・・・それは・・・

1歳ルフィとエースと3人で風船にくくりつけられ飛ばされた・・・
ルフィまだ3歳だよ！

2歳みんなで密林に放置・・・半年後、山賊に預けられる。

ありえないでしょう・・・？

兄ちゃん達・・・なんで顔真っ赤なんだろう？私の顔変な顔なのか？？

．．．．．
そういえば・・・まだ自分の顔なんか気にしたことなかったな．．．

後で見てもよう。

――――泉――――

．．．．．何この顔。

な、な、何で美少女になってるの？．．．．．

．．．．．

もしや、ゼウスの仕業??

.....Orz.....
(泣)

4話

アレから、木の実や果物を見つけ、お兄ちゃん達の所に帰ってきた
(> * <)

「エース兄、捕ってきたよ〜」

エース「おう。ミリーは良い子だな〜」

ナデナデ

「えへっ」

エース兄のナデナデはいいな〜

「ルフィ兄は、何捕ったの？」

ルフィ「俺か？俺はな〜……………」

ルフィの採ったのはデカイ、トカゲだった……（泣）

エース「じゃあ、取り合えずだべるか！」

「うん」。

ルフィ「オウ！」

モグモグ……もぐもぐ……

?????何か果物……不味い……

でも、ココでは貴重だし・・・我慢・我慢・・・

エース「・・・おい！ミリーお前・・・！その模様は・・・悪魔の
実だぞ！」

「そつ！そつ！そんな~~~~~~~~！」

・・・もう終わった・・・これからどうしよう・・・orz

5話

・
・
・
・
・

何でこんな事になってしまったんだろう。。。。

どうも・・・悪魔の実を2つも食べてしまったらしい・・・

・・・それを・・・爺ちゃんが隠れてつけていた兵士に見つかりOr
z・・・

私は海軍本部に運ばれた・・・

ガープ「それで！ミリーの身体はどうなのじゃ！まっ・・・まさか！
死んでしまっただけじゃないだろうな！」

爺ちゃんは軍医の胸座をつかみ、すごい力で揺すっている・・・爺
ちゃんその人死んじゃうよ・・・（泣）

「つる「やめるのだ！ガープ。」

センゴク「そつだぞ！そんなにしては、話せるものも話せないぞ！」

ヤッパリ、おつる中尉とセンゴク元師は話が分かる人だ。

爺ちゃんと大違い！

軍医「ごほつごほつ！……今の時点では何とも言えませんが。普通は、悪魔の実を二つ目を食べてすぐに拒否反応が出て死ぬのですが……ミリー様は、拒否反応がなかった事を考えると、命は大丈夫です。」

ガープ「そうか……無事なのじゃな！よかったぞ……」

「つる「しかしなぜ、2つ食べて無事なのか……」

センゴク「おい！ミリーは、他の悪魔の実を食べても平気なのか？」

軍医「可能性としては、有り得ることだと思います。」

軍医「それと、ミリー様の食べた2つの実は、悪魔の実図鑑には載ってないものと判明しました。・・・未知の力であります。」

センゴク「何じゃと！」

つる「未知の力が・・・」

ガープ「さすがワシの孫だ！ははははっ」

爺ちゃんが何か言ってる・・・が無視しよう。

もしかして、ゼウスが何かしたのかな？

あの人ならありえる・・・

センゴク「しかしこれからどうするか？ミリーを狙うモノが増えよう。それにこの容姿だしな・・・」

????? この容姿 ???

あつ！ そうだった・・・容姿がとんでもない事になってたんだっ
た・・・Orz

ガープ「大丈夫じゃ！ミリーは、海軍に入りワシとずっと居るのじ
ゃ！」

.....Orz

「爺ちゃん。それ決定なの？」

カープ「当たり前じゃ！」

センゴク「その方が、安全で良いじゃろう。しかし・・・ここで生
活させるか・・・」

カープ「わしの 「なし（じゃ）だな」

「ワシのとうで良いじゃろ」

[illegible]

こうして、海軍入りが決まってしまったのである……（泣）

6話（前書き）

何か面白い能力とか思いつかないのですが・・・

誰かアイディアください。

6話

これから、おつるさんのところで生活をする事になったんだけど・・・

「おつるさん・・・何でこんな事になってるの？」

そう、おつるさんだけではなく海軍の集まりに、何故か連れてこられている・・・

しかも、すごく見られているのわ・・・気のせいかな・・・（泣）
・・・怖い

ガープ「貴様ら～～～！ワシの孫を変な目で見んな～～～」
「！」

「「「「「ガープ中將の孫お～～～」！「「「「「

海軍「ありえない・・・」

海軍2「生命の神秘・・・」

海軍3「可愛い・・・」

海軍4「ガープ中将の孫か・・・でも・・・いい・・・」

みんなの言いたいこと分かるよ！だって似てないもん。

でも、最後のは聞かなかった事にしよう・・・うん！・・・怖いし。。

おつる「別け合ってこれから、私のとこで生活するモンキー・D・ミリーだ。聞いてのとり・・・」

ガープの孫だ。」

「「「「「うをおおおおおお~~~~~」」」」」

.....

・・・・・・・・・・

・・・・・・・・こっこっ・・・・・・・・怖い・・・・・・・・

カープ「ミリーに手だすなよ！わしの大事な孫なんじゃぞ！」

爺ちゃん・・・・・・・・たまには、良いこという・・・・・・・・（感ゲキ）（涙）

おつる「ミリーは、悪魔の実の能力者なのじゃが、ミリーの食べた
実は未知のみなものじゃ・・・・・・・・

世界の凶悪な者達に目を付けられると大変な事になる。それにこの
容姿じゃ。皆、もし何かあったらミリーを守ってやってくれ・・・。

「

センゴク「おつるの言つとつりだ。とくに、上のモノはよろしく頼
むよ。」

7話 番外編・・・エースの決意

俺の義妹は、ありえないくらい可愛い・・・

生まれて爺に、連れてこられた時からミリーを守ろうとルフィと心に誓った・・・

爺に、連れられ密林に放置された時に、気を付けてやるべきだったのだ・・・

俺らが守ると心に誓ったはずなのに・・・悔しい。

ルフィ「エース・・・ミリー帰ってこないな〜」。

「検査が長引いてるんだ・・・仕方がないだろう。」

それから数日後・・・じじいが帰ってきた。

「おい！爺！ミリーは一緒じゃあないのかよ！」

ガープ「ミリーは、無事じゃ。ただ・・・当分の間、海軍本部で暮らすかな！」

海軍で暮らす？・・・な、なんで・・・

ルフィ「何でミリーは、俺達の家族だぞ！何で海軍で住むんだよ！」

ガープ「あの子は、悪魔の実を2つも食べて生き残った初めての例なんだ！それに、ミリーの

食べた実は、図鑑にも載ってないような実でな・・・もし、それを利用しようとする者が現れて

みろ、ミリーはひとたまりもないぞ！それにあの容姿だしな・・・

」

エース「じゃあ！俺とルフィが守る！」

ルフィ「そっだよ！俺とエースだ守るから、ここに帰ってくれば良い。」

ガープ「馬鹿も〜ん！お前らは、まだ弱いではないか！どうやってミリーを守ると言っんだ。」

ガープ「守りたいと言っなら、強くなってから言え！」

エース「……………」

ルフィ「……………」

悔しい……爺の言っとうりだ。今の俺らじゃあミリーを守ってや

れない・・・

エース「強くなって、ミリーを迎えに行つてやる・・・！」

ルフィ「おれもだ!!」

爺「では!!海軍に」「入らねーよ!!」「・・・(泣)」

8話 パンダの気分・・・Orz

アレから海兵達は持ち場に戻り、大将 中将 だけがのこった。

センゴク「お前らに、残ってもらったのには訳がある。」

黄猿「訳もなければ、呼ばないでしょうに。」

青キジ「ZZZZ・・・」

赤犬「その娘の覇気色の何か?」

クサンさん・・・どこでも寝れるのはホントだったんだ・・・

この調子だときつと、原作道理・・・仕事から逃げてるんだろうな
。

センゴク「それもあるが他にもある。」

覇気？・・・覇気って、ハンコックとかが使ってたやつよね・・・

私に覇気があるの？・・・まさか！ Orz

もう驚かないよ どうせ、アイツのせいだ・・・

センゴク「実は、この子は悪魔の実を2つも食べてしまったのだが、何故が無事なのだ・・・」

黄猿「！！それは、おかしいですな・・・2つ食べれば死ぬはずなのだが・・・」

おつる「もしかしたらなのだが、この子は悪魔の実を幾つ食べても大丈夫な可能性も有ってな

それに、覇気の色も本来ならありえない色、それにこの容姿じゃ・・・ミリーを狙うやから

が出てこよう。海軍に居た方が安全じゃ、この子の悪魔の実の事

もわかるからの、その方がいいじある。」

モモンガ「この子の悪魔の実は、どのような能力なのですか？」

センゴク「それが分からないのじゃ・・・」

おつる「ただ、分かっている事は、2つとも凶鑑にも載ってない未知の物じゃ。それにまだ3歳だ・・・」

自分でまだ守る事が出来ぬからな・・・」

赤犬「だから、我々ですか？」

センゴク「そうじゃ。」

おつる「本来ならガーブが守れば良いのだが・・・こやつ教育方がおかしくての」

ある時は密林に放置、またある時は風船にくくり付け飛ばしたり・・・まあ、とり合えず

むちゃくちゃんなんじゃ!」

ホントおかしいよね・・・ありえないよ・・・

なんか、みんなが同情の目で見てる・・・

??? 大将のみんながなでてくれる。優しい顔で見てくれる・・・

怖いと思ってた、サカズキさんまで微笑んでる。

そして、爺ちゃんはみんなに怒られてる・・・ザマーミロ!

センゴク「・・・と言っわけなので、取り合えずはおつるが面倒見るが、他の者も頼むぞ」

こうして、私の海軍での生活が始まった・・・

9 話

あれから私のココでの生活が始まった。

そう始まった方がいいが……

「おつるさん……みんなちゃんと仕事してるの？」

そう……私を見にみんなくなるのだ……

おつる「仕事はしているが……まあ、なんと云うかココには女がほとんど居ないからな……」

……確かに少ない……100〜200人中1人の割合しか居ない……

おつる「それに出会いもないからな。」

出会って・・・

「おつるさん私まだ3歳だよ・・・」

おつる「まあ・・・まだ3才だが、ミリー・・・お前は少し自分の容姿に自覚を持つべきだ。」

「??.??.?」

おつる「今はまだ3歳かもしれないが、お前のその容姿はありえないくらい美しい・・・」

もし天竜人にでも目に止まれば・・・」

天竜人が・・・あいつら嫌い・・・

「じゃあ!強くなって、自分で何とかしなきゃね」

おつる「……………」

・ おつるは思った……この子は自分のことをわかってないことを・

みんな……お前が可愛いから自分が守ってやりたいと考えている
奴ばかりなのに……

本人は分かってない……それにお前が大きくなったら求婚しよう
と考えている者が多いと

言うのに……

……ミリーよ……もうすでにファンクラブ（親衛隊）なる者ま
で出来てるぞ……

・ ほとんどの女男問わず入っておると言うのにそれも気づかないか・

「ミリー」おつるさん、どこかで修行したいんだけど。どこかない？

おつる「なっ！お前にはまだ早い！もう少しおおき・・・」

ウルウル

「おねがい・・・」

おつる「・・・っ・・・分かった。用意しておこう」

「やった~~~~！おつるさんだ~~~~い好き~~~~」

この後この発言を聞いた者たちによって、おつるは愚痴られ、ガー
プにも散々言われるのだった・・・

10話 ガープ タジタジ は 駄目駄目爺ちゃん

おつるさんに、頼んで（泣き落とし）修行する場所を提供してもらったけど・・・

「何でこんなに人が居るの・・・？」

人にはばれないようにココまで来たのに・・・無駄？・・・（泣）それに、爺ちゃんまで居るし・・・一体いつ仕事してるんだ???

・・・爺ちゃんの事だ・・・部下に押し付けたか、脱走してきたな・・・

ガープ「おう。ミリー会いたかったぞ〜〜〜。」

「爺ちゃん何してるの？仕事は？」

ガープ「うん？ミリーが修行すると聞いてな！」

「だ！ か！ ら！ 仕事は！！！」

ガープ「……それはだな……え……と」

ヤッパリ、脱走か……

「いつも、部下の人達に迷惑かけたら駄目って言ってるでしょう！
爺ちゃんのせいでみんな
大変なんだよ。良い大人がいい加減にしないで！」

ガープ「しかしだな……爺ちゃんはお前たちが心配で」「問答無
用！これ以上お仕事ちゃんとしなければ、嫌い
になるからね！」

ガープ「つな！ 爺ちゃんを嫌いになるなんて言わないでくれ」
（泣）」

「もう！知らない。」

ガープ「そんな……！」しくしく……イジイジ

おつる「ガープにそこまで言えるとわ。さすがだな……。」

「あっ！おつるさん」

ガープ「何で・・・何でなんだ！ おつるに、そんなに可愛い笑顔を向けて！ ワシには？」

無視・・・

おつる「お前が、部下に仕事を押し付け脱走なんかするからだろ！」

そうそう。おつるさんもつと言って！

ガープ「だって・・・ワシの知らないところでミリーが成長してるのがイヤなんだもん・・・」

・・・イジイジ・・・イジイジ・・・

おつる「・・・はぁ」

おつる「お前がキチンと仕事をしてきたら、ミリーはもっとお前が好きになると思うぞ。」

ガープ「！！ ホッ！ ホントか？」

なぜココで私に振るの……

仕方がないな。

「うん。ちゃんと自分の仕事こなせて、公私混合しない人 尊敬するな」

ガープ「じゃあ！ 明日からはきちんとするから。嫌いにならないでくれ！」

「うん。嫌いにならないよ」

ガープ「わっ 分かった。」

この話を 聞いた者たちによつて、みんなに知れ渡り・・・

海軍の仕事やいろんな面で効率が上がったことは、ミリーは知らない。

この事を知ったセンゴクとおつるによつて、ミリーに色々頼むと効率が上がるとガープや今まで

仕事をサボっていた者達の、部下に伝えられミリーにみんな頼んでくるようになった・・・

11話 (前書き)

やっと、悪魔の実について書ける♪

長かった・・・

やっと、少し進みます・・・

1
1
話

取り合えず、爺ちゃんは無視して能力の解明でもするか……

「ねえ。おつるさん、悪魔の実ってどうやって調べれば良いの？」

おつる「普通なら悪魔の実の図鑑から調べて、使つて見るんだがミリーのは分らないからな……」

「取り合えず何か力や自分の感覚で前と違う事はないか？」

違う事か……

取り合えず目をつぶり 無の状態にしてみた・・・

[illegible][illegible]

\cdot

何だろうこの感じ……

何で鋼の映像が頭に流れてくるんだ？

……ん？……

ゼウス？

ゼウス「やっと 心の声に気づいたか！」

ゼウス「……あんたの行為でとんでもない世界に来たじゃない！

ゼウス「まあ！ 良いじゃないか 楽しいだろ」

楽しいけど……私の平凡が……（泣）

ゼウス「そんな事より（そんな事って！） お前の悪魔の実のこと
だけ。」

悪魔の実って！！ アレもあんたの所為？！

ゼウス「おう うれしいだろ？ 最強だぜ！ 何って言ったって
神の力の実にしたからな」

・・・・・・・・・・・・・・・・神？・・・・・・・・ゴット？

ゼウス「そう。神」

って 何だ？ 何でそんな力になってるの？ しかも、神の力って
何？？

11話 (後書き)

何か、短くなってしまった・・・

限が良いからまあ、いいつか

12話 神の力・・・もう、何かチートだね・・・平凡が・・・

神の力って何??

ゼウス「神の力とは、創造主の力だな」

創造主って・・・ドンだけチートなの？

しかもどうやって使うのさ、分けてわかんないし。

ゼウス「使い方が？ 本来なら考えたイメージすればいいんだが、前の世界にあった鋼の何とかと言ったヤツみたいに使えば良いと思うぞ。 あんな風に使えばそんなに怪しまれないし。」

鋼か・・・そういえば、さっきの映像って・・・鋼だったな。

ゼウス「あつ！ それ俺がやった」

ヤッパリ お前か！

ゼウス「それと、お前の事気に入ったから、お前死んだら神になる事になってるからな」

なっ！ 何だと~~~~~~~~~！

ゼウス「おう そんなに喜んでくれたか」 他にもい情報があるぞ」

喜んでないし！ それに他にもなんかしたのかよ！

ゼウス「したぞ！ ドンだけ悪魔の実を食べても死なないし、泳げるし あっ！ あとは、もう1つの実は、治癒治癒の実とでも呼ぶか 即死でない限り怪我では死なないぞ あと、お前の血を飲ませれば他の者も治るぞ」

・・・もう何も言わない・・・（泣）

ゼウス「そうか、じゃあまた来るわ」

もう来なくて良いよ・・・

そう言って徐々に声が聞こえにくくなっていった・・・

ゼウス「そうそう言い忘れてた・・・悪魔の実・・・天敵の・・・
・・・は・・・

だい・・・しといたからな・・・」

?????何を言ったんだ・・・?????

13話 何だ！この力！

ゼウスとの念の会話が終わってから取り合えず力を使ってみる事に
したけど・・・

どうやって、怪しまれないようにするか。

取り合えず・・・

「なんか前と違う感じがあるのがなんか分かったから、使ってみ
るね。」

おつる「でわ、我々は離れて見ているからな。分からない事があ
ったら言いなさい。」

「は～～い。」

取り合えず 錬金術みたいにしないと本当のことがばれるとやばい
からな～あ。

確か・・・鋼って、手を合わせて練成するんだよね。

でも、アレだと物がないと可哀しいし、魔法みたいに使う事が出来ないからな〜。

．．．．．うっ~~~~~ん
(悩) ．．．．．

あっ！ 良いこと思いついた

手を合わせて

パン バチバチっ

練成完了

――おつる視点――

ミリーの能力がどんな物か見に来てみたが・・・

凄い事になっていた。やはりか　としか言いようがない・・・

ガープが脱走してきてるは、他の訓練施設で訓練していたはずの者達がみんなココに集まっていた
しかも　センゴクや大将達が隠れて見ている始末じゃ。

まあ・・・分からんでもないがな。

しかし、ガープが説教されておるが・・・ザマーミロだな！

ミリーの説教が終わり、力について何か精神統一のような事を始めてから・・・

5分

なんか分かってきたらしく、私たちは離れて見ている事にした。

・・・が ミリが手をたたいたかと思うと稲妻に似た現象が起こり、金の塊が現れた。

・・・なんだ？この力は・・・

14話 金??

取り合えず練成してみたけど・・・って練成じゃなくて創造の力なだけでさ・・・

ってか・・・金作ってみたけど・・・他のにした方が良かったのかな・・・

おつる「ミリーその力はなんだ！」

?????

「何か良くわかんないんだけど 周りにある物を集めてみたの。」

おつる「それで金が出来たのか？」

「そうみたい」

おつる「・・・取り合えず ミリーその能力を人に見せてはいけないよ。」

「・・・???なんで?」

おつる「どの力を使えば色んな物が作る事が出来るという事は、それを使えばどんな者も金持ちになれ

化学反応を起こさせ爆発させたりもできるお前を捕らえて悪用すれば何でも出来る。悪の者がお前の力を

知れば利用せんとする者が現れるだろうからな・・・」

言われてみればこの方法もかなりチートだよね・・・

まあ、創造の力とはばれてないからいいっか

「うん。分かった」

おつる「それと、この力を制御できるようになさい。」

「はい。」

おつる「もう一つの力は分かっているのか？」

「うん。何か傷を治したりする力みたい。」

おつる「そうか……」

——おつる視点——

この子の持った力は、かなり厄介だな。

錬金してしまうとは……

一様釘を差して置いたが……

「もう一つの力は分かっているのか？」

ミリー「うん。何か傷を治す力みたい。」

呆気ラカンとした言い方にため息が出てしまった……

まだ、3歳だ仕方がないが・・・

「その力もかなり珍しい力だから 気を付けて使っただよ。」

ミリー「うん。分かった。」

主人公

モンキー・D・ミリー

3歳女

ルフィーの1才下の妹

ゼウスにより転生・・・平凡をこよなく愛する少女

ゼウスのお節介により、

容姿

黒髪のパツチリ二重目

小顔

口は可愛らしくキスしたくなる様な、ぷるるんお口

絶世の美少女

それは、エースとルフィーがシスコンになるほど・・・

悪魔の実の力

神の実（神神の実）

他の人には、鍊金の実と言う

治癒治癒の実

即死、死にいたる病気以外なら治す事ができる。

15話 番外 ガープvsエース ルフィ

「エースの憂鬱」

爺から珍しく手紙が届いた・・・

そう、届いたのは良いとしてこの写真は何だ。

ルフィ「なあ・・・。エースこの写真・・・」

そう、問題の写真はミリーが男どもに囲まれている写真だ！

「ルフィ、ミリーをこのままに置いて良いと思うか？」

ルフィ「駄目に決まっているだろ！」

ルフィも俺と同じ気持ちか。

「取り合えず、爺に連絡取るぞ！」

ルフィ「おう。」

プルプルっ……プルプルっ……ガツチャ

ガープ「ハイ。もしもしワシじゃが！」

……爺……普通の人ならワシじゃあ、誰だかわかんないぞ。

「俺、エースだけど。」

ガープ「おう（喜）エースか、ミリーの写真が届いてお礼の電
話か？ 爺ちゃんはうれ「なわけ
ないだろ」……はあ？」

「 爺！ ミリーは何で野郎どもに囲まれてるんだ？ 回答に選
ちやあ……分かってるよな？」

ガープ「まっ！ まて、何の事じゃ？」

「爺の送った写真の中にミリーが野郎に囲まれてるにがあるんだよ
!」

ガープ「アレは、ミリーが修行しているところに教えてやろうと
だな・・・」

「教えてやるのに鼻の下のばしたり エロい目で見たりするのか？

どう見てもミリーを変な目で見てるだろう！ そんな事も爺わかん
ないのかよ!」

ガープ「いや」 まだミリーは3歳だし「三歳とか関係ないだろ！」
・・・」

ガープ vs エース

このやり取りが5時間続き

その後、ルフィに代わり

ルフィ「爺ちゃん！ いい加減のしろよ！」

ガープ「爺ちゃんはなあゝお前達が可愛いんじゃ・・・頼むから嫌いにしないでくれゝゝ（泣）」

ルフィ「嫌いとかの問題じゃないだろう！ さっさとミリーを俺たちのところに返せ！！」

この攻防戦が2時間続いた。

海軍本部では、メソメソと体育坐りをしのの字を書くガープの姿が在ったのだった。

エース「くそつ爺め！！」

修正できるかな・・・（泣）・・・

私、理数系は得意だけど文系苦手なんだよな〜。

妄想好きで気の向くまま、思いつくまま書いたんだけど・・・表
現が難しい・・・。

漢字読めるけど書くの嫌い！

こんな感じなので漢字間違いとか多いので少し訂正したりします。

よろしくお願いします。

りょうでした。

16話　そろそろ良いんじゃないの？・・・まだ早い・・・そうですね（泣）

アレから2年たった。

もう5歳になった。

そろそろ　帰りたい　エースとルフィに会いたい（泣）

爺に言いに行こう！

もう　爺ちゃんじゃなくて　爺で良いや。

5分後

爺の部屋に着いた。

コンコン

ガーブ「はい」

「爺はいるぞ！」

ガーブ「なっ！ ミリー爺とは何じゃ！ 爺ちゃんと言いなさい！
爺ちゃんと！」

「もう、爺で十分！ いい加減 お兄ちゃん達に会わせて！！」

ガープ「ならん!!」

「何で!」

ガープ「何でもじゃ!!」

・・・この爺 何か企んでる・・・

「爺・・・もしかして、私を利用してお兄ちゃん達を強くし
軍に! なゝんて

考えてないでしょうね!」

ガープ「・・・」　ダラダラ　（冷汗）

ヤッパリ!

「凶星なんだ。．．．ふん。」

ガープ「ミッ！ミリー．．．爺ちゃんはだな「いい加減にして
はい。」

もう如何してくれよう。

16話 そろそろ良いんじゃないの?・・・まだ早い・・・そうですか(泣)

短くてすみません・・・今から用事終わらせて また続き書きます。

17話 もう良いでしょ？

爺と1時間 おはなし したよ。

「爺から爺ちゃんに戻してあげるから、かえして！」

ガープ「ホントか?！」

「うん。」

ガープ「じゃあ！7日間のみじゃぞ！」

7日かゝ、短いけど・・・これ以上は無理か。

「うん 爺ちゃんありがとう。」

ガーブ「良いんじゃない。 ミリーが爺ちゃんと言ってくれただけで
ワシは嬉しい（泣）」

そんなに、爺がいやだったの？

「爺ちゃんいつ行くの？」

ガーブ「そうじゃな。・・・3日後じゃな。」

「わかった。」

18話 予想外の出来事・・・

3日間 ルフィ と エース に会う為に準備が大変だった。

何が大変かって？

海兵1「あの・・・ミリーちゃん 実家に一時帰宅すると聞いたから。これ、みんなで食べて。」

「あつ。ありがとうございます、」

それから3時間後

それから次々にみんなが持って来て、部屋が・・・部屋が・・・（泣）

おつる「おい！ ミリ入るぞ・・・なっなんだ これは！
」

「みんなが家に少し帰るって聞いて持ってきたの・・・ええくん
泣」

おつる「限度と云うモノがあるだろう！」

どんな常態化というと。

ベット以外居る場所がなく 足の踏み場がないので、部屋からも出
れず・・・

おつるさんが来るまで4時間この状態が続いただ。（泣）

おつる「今日は、私の部屋で寝なさい。」

「おつるさん（泣）動けないの~~~~~！」

おつる「っな！ とりあえず待っていていなさい。」

アレからおつるさんが部下を連れて来てくれて、助け出してくれて。

その後、私に色々持ってきたくれた人たちは おつるさんにより説教とお仕置きが待っていた。

その中に大将である クサン サカズキ ボルサリーノ の姿が遇
つたらしい・・・

19話　その頃、エースは・・・前編

アレから　おつるさんの部屋で。

おつる「そういえば、兄達に帰る事伝えたのか？」

「あ！　するの忘れてた・・・」

おつる「お前な～・・・いや、さすがガ・プの孫と言ったところか。」

なっ！　爺ちゃんに似てるだつて！！

ぜ～～～～～～つたい！　いやだ！！

全然似てないよね

「取り合えず電話してきます。」

おつる「そうしなさい。」

プルっプル……プルプル……プルプル……ガチャ

エース「なんだ!! 爺! ミリーをいい加減帰しやがれ!」

……エース兄……爺ちゃんに帰せって説得してくれてたんだ。

それにしても、爺 そのうち おし おき が必要だね

「もしもし、エース兄。ミリーだけど。」

エース「なっ！ ホントにミリーか？」

「うん。 今度そっちに一時帰宅する事になったから。」

エース「ほんとか！」

「うん。」

エース「やった~~~~~あ。ルフィ~~~~~ミリーが
かえってくるぞ~。」

ルフィ「ホントか。エース」

エース「今ミリーから電話で・・・」

兄ちゃん私ほったらかし・・・

「もしもし？」

エース「おっおう。すまん取り合えず分かった。それでいつごろなんだ？」

「3日後ココを出るから、2週間〜3週間後ぐらいだと思っつ。」

エース「分かった。」

「じゃあ。また帰ってから色々話すね」

エース「おう。楽しみに待ってるぞ。」

「
うん。
」

20話後編

エース視点

ミリー「ただいま」

ようやく帰ってきたか。

「お帰り。」

と言い玄関に行くと・・・

絶世の美女が立っていた。

「あの～どちら様で・・・」

「ミリー」お兄ちゃん？私ミリーだけど・・・忘れちゃったの？」

・・・・・・・・・・

「ミリーは、まだ5歳のはずだが・・・」

どう見ても15〜18歳ぐらいに見える。

ミリー「ミリーね。エース兄が大好きで、結婚したいから海軍の偉い人（研究家）達に

大きな薬をね〜作って貰ったの〜」

「なっ・・・・・・・・！」 動揺する俺。

どうする？俺！！

ミリーとは、本当は血は繋がってないし・・・

ミリの方をしてみる。

綺麗だ・・・可愛いし。

妄想中

•

.....考え中.....

よし！！

「ミリー本当に良いのか？」

「うん。ミリーね！エース兄が良いの。」

ミリーの上目ずかに撃沈

「ミリー・・・」

ミリー「エース兄・・・」

見詰合い・・・そして唇・・・

・・・ドォーーーーーーッーーーーン・・・

ルフィ「エース、起きろ~~~~~」!

なんだ??? んん? ルフィ。

「・・・・・・・・・・・・・・・・夢か。」

アレが現実なら。

ルフィ「????????」

「なんでもない。」

ルフィ「そうか。じゃあミリーが帰ってくるまでに、強くなるための修行するぞ〜。」

ルフィ・・・何でそんなに元気なんだ。

あの夢の続きが見たい・・・
(泣)

21話

あれから。

(前書き)

ミ
ー

21話 あれから。

アレから色々あった。

みんなが持ってきたお土産の数々を整理して、出発の朝。

??????

みんなの目にクマ。

おつる「ミリー……見てやるな。」

なんとなく分かりました。

おつるさんの説教がどうやら、未だ続いているらしく 昨日から今朝にかけて説教と

言う名の拷問が遭ったらしい。

「おつるさん。 もういいから許してあげて。。。」「

海兵達だけじゃなく、大将3人も説教されてるらしい。

おつる「そういうが、奴らは懲りず未だに贈り物を持っていくこと
していたんだぞ！」

・・・それは。 迷惑な・・・

「おつるさん。 好きなだけやっちゃって良いです。」

おつる「分かった。」「ニヤリ

こうして ミリーが旅立つその日まで お説教と言つ名の拷問がつづいた。

21話 あれから。(後書き)

そろそろ旅立ちます。

幼き頃のサンジを出そうか悩んでいます。

それとも、ゾロ？

22話 旅立ち

やっと帰る日になった。

見送りにみんな来てくれて……って多くない？

見渡すかぎり 人 人 人の嵐

私アイドルじゃないんだけどな。

自分の容姿について 全く 理解していないミリーなのであった。

ガ・プ「おっ！ 来たか。ミリー」

出港準備を行なっている爺ちゃん……あれ？

爺ちゃん仕事だったはずじゃあ・・・????

ミリー「爺ちゃん・・・お仕事わ？」

ガープ「んん？ 終わったぞ！」

仕事がおわった？ あの万年サボりまくりの爺ちゃんが？

・・・ありえない。

ミリー「爺ちゃん・・・本当に終わったの？ また、部下に押し付けてきたんじゃないの？」

疑惑の眼差し

ガーブ「押し付けておらんぞ。 チャンとして来たぞ。」

自信に満ち溢れた目

本当なのか？

おツル「ミリー。 今回はホントじゃぞ！」

何と！！！

雨！・・・いや！嵐が絶対くる！

おつる「ミリー・・・お前の気持ちは分かるぞ！ 何せ、ガーブが

海軍に入って初めての

事じゃ！ お前が疑うのも 信じられないのも ものすくすく

分かる 分かるが！！ ホントの事じゃ。」

ミリー「爺ちゃん頑張ったんだね！ 偉いよー！（泣）」

ガープ「爺ちゃん頑張ったぞ！ 何せミリーとお出かけする為だからな！

こんな事なんてことわないわ！」ガハハハハハハハア

ミリー「爺ちゃん威張る事じゃないよ……本来なら当たり前の事だよ。」

おつる「ミリーの言ひやうじや。」

こうして 爺ちゃんも一緒に行く事になった。

大丈夫か？

23話 ガープ視点

ワシは、娘がほしかった。

しかし、生まれてきたのは・・・男。

我が子だから可愛いは可愛いのだが・・・

年を重ねるにつれ、可愛くない！ 取り合えず可愛くないのだ！

ワシの言う事は聞かず、革命なぞほざきやがった！

ワシは海軍に入れたかったんだ！！

しかし、あの馬鹿が生まれて初めてよかったと思った。

それは、孫だ！

ワシの孫は世界一可愛い、素直じゃ！

あの馬鹿の子　とは思えないぐらいいい子なのじゃ！

あの子には幸せになってもらわねば・・・

やはり、海軍にいれて・・・いや。

海軍にいれるのでは、だめだ・・・

そうだ！海軍の強い者に嫁に出そう。

よし！

24話 番外 ルフィー視点（前書き）

エースの妄想ネタの後に、書くつもりが忘れてました（>・<）

24話 番外 ルフィー視点

ミリーが爺ちゃんに連れて行かれてから、エースがおかしい。

エース「おい！！ルフィー。修行するぞ！」

張り切り様が半端ない。

ミリーの為に強くなるのは、俺も賛成だけどな、何せ……

俺の可愛い いもつと だからな ！！ 守らないと ！！

永遠~~~~~

・・・オット！ ミリーの話じゃなくて 今日のエースだな。

最近エースが寝起きが悪い

今までだったら、俺より早く起きてきたはず・・・

とある日

あれ？もつこんな時間だ。

「いつもなら、エースが修行~~~~って言うてくるのに・・・？」

最近おかしいな。

取り合えず、起こしに行くか。

エース「~~~~ミリー・・・俺も・・・」
「良いのか？」

どんな夢見てるんだ？

エース「．．．でもな．．．好きだ．．．
．．．おれも．．．」

意味がわからない。取り合えず起こすか。

「エース．．．．．！！修行するぞ．．．．．！！」

と言って起こしたら、睨まれて．．．俺がわるいのか？

この後の修行は．．．辛かった。

25話 海上レストラン

海軍本部を出てから、2日たったある日の出来事。

「ここは・・・」

そう、爺ちゃんの思い付きにより海上レストランに来てしまった。

「兄ちゃんが、航海するまで来るつもりはなかったんだけどな。」

そうとも知らず、相変わらずの爺ちゃんは、

ガープ「ミリー早くおいで〜」。爺ちゃんとデートだぞ〜。」

孫とデートって・・・

私ならいやだ・・・あの能天気な爺ちゃんとデートなんて・・・
恐ろしい。

何が起こるか分かったものではない。

この人とデートできる人を見てみたい・・・いないだろ。

「爺ちゃん、デートではありません。ただの家族の夕食です!」

ガープ「わあはははは（笑）照れる出ないぞ〜〜」。

「照れてないです。ものすごくいやです。変な妄想しないでください。これ以上変な妄想

するならお鶴さんに、言いますよ。」（無表情）

（ガープの心の中）

ミリーの無表情は怖い・・・最近 お鶴のキレた時の状態に似てきた・・・

ヤバイの〜このままいくと本気でキレる。

ガープ「・・・（冷や汗）じっ・冗談じゃ!!!!」

「分かればいいんです。取り合えず食事にしましょう。」

なんとか事なきを終えてか・・・

26話 サンジ視点

サンジ「くそ〜!!あのくそ爺!」

サンジ「大体あいつらの腕が悪いんだ!」

そう言っ、イライラしているサンジ

???「ミリー! 爺ちゃんとデートだぞ〜。」

ミリー「変な事言わないでください。．．．大体．．．．．」

サンジ「何の声だ?」

ものすごく可愛い声が聞こえてきて、気になったサンジは、窓から乗り出し見て見ることにした。

そこには……

サンジ「……かつ……可愛い」。／／／／／

そこには、黒髪のロングストレートヘア　目はパッチリ二重　口と鼻は小さすぎず

バランスのよい形になっている。

サンジは、初恋というモノをしたのであった。

サンジ「何なんだ？この気持ち……」

27話 これから・・・どうする？

こんな展開になるとは思わなかった。

だってそうでしょう？

あの世界の彼は・・・ 女大好き の タラシ だったはずだから。

こんな・・・こんなことって・・・

！ ！ ！ イレギュラー だって ！ ！ ！

あれは、爺ちゃんとご飯食べている時だった・・・

ガーブ「ミリー おいしいかい？？」

ミリー「うん おいしいよ 幸せ。」

ガーブ「そうか、そうか。おいしいか 爺ちゃんもおいしくて幸せだぞ。」

爺ちゃんに、味覚ってあったの？

ルフィー兄ちゃんと一緒に何でも食べてしまうから、無いかと思ってたわ。

バン！！

イキナリドアが開き エース兄ちゃんと同じぐらいの男の子が入ってきた。

そう、その時気づくべきだったのだ まだ、会すべきではないと。

従業員「こら~~~~！！ サンジ！ お客様がいるんだ静かに入ってきて！」

サンジ「……」

従業員「おい！ サンジ聞してるか！？」

そう言う従業員を他所に、サンジは少女を探した。
そう、ミリーを……

サンジ「……居た……」

従業員「居た？ オッ……オイ！ サンジ！！」

そう言うと、サンジはミリー目掛けて歩き出した。
流石に、鈍いミリーでもこの状況には気づいた。

あの子、私目掛けて歩いてきてない？！

あっという間にミリーのところに着いてミリーをジッと見ている。
流石のミリーもこの沈黙とガンミには耐えられず。

ミリー「あ〜〜〜〜・・私に何か御用ですか？」と聞いてみた。

サンジ「・・・・・・」

ミリー「あ〜〜〜〜」ボソ「・・え？？」

サンジ「かわいい・・・・・・」

ミリー「はあ？？」

サンジ「あの！ イキナリですが！ す・・・・す・・・・」

ミリー「す?????」

サンジ「好きです！ 結婚を前提にお付き合いしてください!!」

ミリー「……………へえ?????」

サンジ「お願いします!!」

そう言われても……………どうしよう。

そっだ!! お爺ちゃんに助けを…………

ガープ「ZZZZZZZ」

くそ爺!の役立たず!

こんな時に、飯食いながら寝るんじゃないよ!!

ホント、どうしよう。

サンジ「イキナリでビックリしたのは分かります。でも…………

本気なんです!!お友達からでもいいです!お願いします!!」

友達ならいいっか。

ミリー「じゃあ、お友達なら。」

サンジ「ホントですか？」

ミリー「はい。」

サンジ「やったーーーーー!!!」

ミリー「あの、自己紹介がまだでしたね。私モンキー・D・ミリー
といいます。

あなたは？」

サンジ「あつ！俺、サンジっています。」

ミリー「へえ???」

サっ・・・サンジ・・・サンジって・・・

あのサンジ???

ど・・・どうしよう!!!

まだ、会ったらいけない人なのに~~~~~!

と悩むミリーであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4089m/>

ワンピースに・・・転生してしまった

2011年7月26日08時39分発行